

**製品名:** IPP-2 (リン酸化 Ser120/S121) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab04862

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

## 抗原情報

遺伝子名	PPP1R2
別名	PPP1R2; IPP2; Protein phosphatase inhibitor 2; IPP-2
遺伝子 ID	5504.0
SwissProt ID	P41236
免疫原	抗血清は、ヒト PPP1R2 の Ser120 と Ser121 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 86-135

## 背景

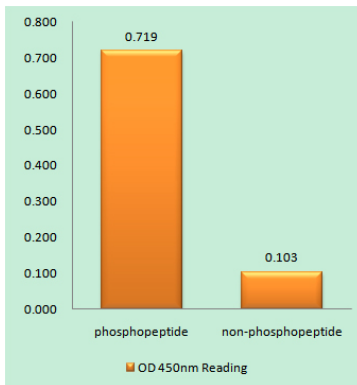
プロテインホスファターゼ 1 (PP1) は、真核生物の主要なセリン / スレオニンホスファターゼの一つです。この遺伝子によってコー

ドされるタンパク質は、PP1の触媒サブユニットに結合し、その活性を強く阻害します。ヒトゲノム全体で10の関連遺伝子が見つかっています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数のスプライスバリエントが見つかっています。[RefSeq提供、2015年10月]機能: プロテインホスファターゼ1の阻害剤。PTM: GSK3によるThr-73のリン酸化は、PP1-PPP1R2複合体を解離させることでPP1を活性化します(類似性による)。ATMによるSer-44のリン酸化は、PP1-PPP1R2複合体を解離させることでPP1を活性化する。類似性: タンパク質ホスファターゼ阻害剤2ファミリーに属する。サブユニット: PP1とのヘテロ二量体。

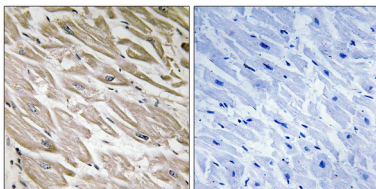
## 研究分野

-

## 画像データ



PPP1R2 (リン酸化 Ser120+Ser121) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PPP1R2 (リン酸化 Ser120+Ser121) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。